

## 主な出火原因別 防火のポイント

住宅火災の原因で多いものを挙げました。あらためて自分の生活を振り返り、日ごろから火災の予防を心がけるようにしましょう。

### コンロ

- 油料理の際はその場を離れない(天ぷら油は約360℃以上になると自然発火する)
- 周囲や上部に燃えやすいものを置かない
- 調理中は着衣への引火に注意する



### ガス・石油器具

- ストープで洗濯物を乾かささない
- 周囲に燃えやすいものを置かない
- 給油は完全に火が消えたことを確認してから



### 放火

#### 敷地・建物への侵入を防ぐ

- 門扉・車庫・物置など、夜間の施錠管理を心がける
- 玄関や窓に防犯ブザーを設置する
- 建物や敷地に死角の要因となる物の整理整頓をする
- 死角となる個所に侵入監視センサーなどを導入する
- 防犯ブザーやセンサーなどが作動した場合の初動対応について把握しておく
- ふるさと見回り隊などの警戒パトロールに参加する
- 玄関先を明るくするための照明器具の導入を進める
- 長期間留守にする場合には、新聞配達を止めるようにする
- 長期間留守にする場合には、近隣住民への声かけをする
- チェーンロックを使用する
- インターホンシステムを導入する
- 建物外壁の不燃化と補修をする

### たばこ

- 寝たばこは絶対にしない
- 大きめの灰皿を使い、常に水を入れておく
- 吸い殻はくずかごに捨てず、水をかけて生ごみと一緒に捨てる



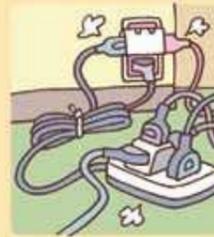
### 火遊び

- ライターやマッチは子どもの手の届かない場所に置く
- 花火をするときは必ず大人と一緒に
- 子どもだけを残して外出しない



### 電気器具

- 通電しているコンセントやプラグにほこりをためない
- たこ足配線をしない
- コードの上に重いものを載せない



#### 自宅周辺に燃えやすいものを置かない

- 可燃物は部外者の目に届かない場所に整理整頓する
- ごみの回収日を把握しておく
- ごみ回収のルールを徹底する
- 自転車などのカゴに物を放置しないようにする
- 車両などのボディカバーは防災製品を使用する
- 新聞やチラシはこまめに取り込む



## 住宅用防災機器を利用しましょう

火災予防を目的に作られた製品を家の中にそろえ、「火災が発生しにくい環境」を整えましょう。

### 住宅用火災警報器(住警器)を設置する

消防法により、すべての住宅に住警器の設置が義務付けられています。既設住宅でも平成23年6月までに、すべての市町村で条例によって義務化されました。住警器は、住宅火災からの「逃げ遅れ」を減らす切り札ですから、まだ設置していないお宅は、早めに設置するようにしましょう。



### 防災品を購入する

住宅火災の多くは、布団やカーテン、衣類といった室内の繊維製品に着火して燃え広がります。防災品は、繊維製品などを燃えにくく改良したもので、認定品にはラベルが表示されています。



### 初期消火の3原則

#### 通報

- 大きな声で「火事だ!」と叫び、隣近所に知らせる。声が出ない場合は非常ベルや音の出るものをたたいて知らせること。
- 小さな火でも必ず119番に通報する。



#### 初期消火

- 備え付けの消火器のほか、水や座ぶとんなど身近なものを活用して消火する。



#### 避難

- 火が天井に届いてしまったら、まよわず避難する。
- 避難するときは可能な限り燃えている部屋の窓ガラスやドアを閉めて空気を遮断する。



### 生活のなかに防火の習慣を

#### ● 寝る前に必ず火の元を確認

ガスの元栓、こたつのコンセントなど、寝る前に火の元を点検する習慣をつけましょう。



#### ● 高齢者の部屋は1階に

高齢者や子ども、傷病者の部屋はできるだけ外に逃げやすい1階にしましょう。



### 消火器の使い方を覚えておきましょう

- 1 安全ピンを上強く引き抜く



- 2 ホースをはずして火元に向ける



- 3 レバーを強くにぎって噴射する



#### 構え方

- 1 風上にまわり、風上で構える
- 2 屋内では出入り口を背後にして、避難路を確保する
- 3 やや腰をおとして低く構える
- 4 熱や煙を避け、炎には真正面から向き合わない
- 5 炎を狙うのではなく、火の根元を掃くようにホースを左右に振る

